

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第33号—

令和2年12月14日
戸市立津吉小学校
文責 校長 田川定司

「負けました」と言うこと

敗者が「負けました」と声に出して言うことで試合が終わる。それが将棋というゲームのルールである。「負けました」と認めるときの心境とはいかなるものだろうと想像する。プロでさえ葛藤があるらしい。将棋を始めて間もない小学生などは悔しくて「負けました」が言えず、盤を前に泣きだしてしまうこともあるという。谷川浩司九段は、この「負けました」について対談でこう語っている。「強い人は『負けました』をきちんと言いますね。(中略)一流の棋士はみんなそうです。」「だんだん年齢が上がってくると、自分の子供のような年の人とも対局することになるので『負けました』を言うのはつらいのですが、これは現役棋士である限りしっかりやらなければいけません。それがはっきりと言えなくなったらやめるしかないというような気持ちではいます。」(東洋館出版社「将棋に学ぶ」より) 将棋関係者は、「負けました」を言うことが子供の心を強くするとして、その教育的効果を指摘する。

話は変わって、米国人女優ハル・ベリーさんのエピソードである。彼女は2002年、「チョコレート」の演技でアカデミー賞主演女優賞を受賞した押しも押されぬ実力派だ。しかしその2年後に主演したSFアクション「キャットウーマン」の評判は散々で、ゴールデン・ラズベリー賞の「最低主演女優賞」に選ばれてしまった。この賞は映画ファンたちがその年の駄作を選ぶという意地の悪いイベントであり、ほとんどの受賞者は完全に無視する。しかしハル・ベリーさんは授賞式にさっそうと登場。トロフィーを手にスピーチした。「私がここに来たのは、小さい頃に母からこう言われていたからです。『良き敗者になれないなら、良き勝者にもなれない』」タフな人生観と懐の深さを披露した彼女は会場から大喝采を浴びた。彼女はその後も浮き沈みの激しいハリウッド映画界で活躍を続けている。

【西日本新聞より】

学校や家庭等、子供たちの生活の中にはどの子も、負けたりできなかつたり思うようにいかないことがたくさんあります。このような時に、いかに自分の気持ちをコントロールするか、現状の自分を受け入れ次につなげるのが大事だと考えます。その経験の積み重ねが、人の成長に欠かせないことであろうと思います。「負ける」を絶好の機会ととらえ、「たくましい心」をつくるチャンスにしたいものです。



裏もごらんください。

『負ける練習』

相田みつを

柔道の基本は「受身」

「受身」とは投げ飛ばされる練習人の前で叩きつけられる練習人の前でころぶ練習、人の前で「負ける練習」です。

つまり、人の前で失敗をしたり、恥をさらす練習です。

自分のカッコの悪さを多くの人前でぶざまにさらけ出す練習それが「受身」です。

柔道の基本では、カッコよく勝つことを教えない

素直にころぶことを教える、いさぎよく負けることを教える。

長い人生には、カッコよく勝つことよりもぶざまに負けたり、だらしなく恥をさらすことのほうが、はるかに多いからです。

だから柔道では始めに「負け方」を教える。

そして負け方や受身の本当に身についた人間が、

世の中の悲しみや苦しみに耐えて、ひとの胸の痛みを心の底から理解できるやさしい温かい人間になれるんです。

